

# **GIGAスクール構想のもとでの中学校音楽科, 高等学校芸術科音楽の指導について**

# GIGAスクール構想のもとでの中学校音楽科， 高等学校芸術科音楽の指導においてICTを活用する際のポイント

## 音楽科，芸術科音楽におけるICT活用の利点

- 聴覚だけでなく，視覚などの他の感覚を働かせて音や音楽を捉えながら，音楽表現を創意工夫したり，音楽を聴き深めたりすることができる。
- 創作の学習において，つくった音楽を記録したり，実際の音で表したりすることが容易にでき，創作表現を創意工夫する活動に集中することができる。
- 自分たちの演奏や作品を録音や録画で残すなど学習履歴を蓄積し、学習の振り返りや学習成果の確認に生かすことができる。

## 音楽科，芸術科音楽におけるICT活用の際の留意点

- ▼どの学習活動での活用が効果的か，活用場面を精選する。
  - ◎生徒の思考を活性化させたり，創意工夫を促進したりする場面で活用する工夫が必要
- ▼ICT端末を操作することが活動の目的にならないように留意する。
  - ◎指導のねらいを明確にした上で，適切かつ効果的に活用することが重要

# GIGAスクール構想のもとでの中学校音楽科, 高等学校芸術科音楽の指導においてICTを活用する際のポイント

## 音楽科, 芸術科音楽におけるICT活用の例

### 【表現】

- ・自分の歌唱や演奏を録音・録画し, それを再生しながら, 表したい音楽表現への見通しをもったり, 技能の習得過程を確認したりする。
- ・音を可視化するソフトを活用して, 音高や音量, アーティキュレーションなどを確認し, 表したい音楽表現を創意工夫するための修正の方向性をもつ。
- ・インターネットを活用して, 曲の背景などについての知識を得ながら, 歌唱・器楽で表現するための思いや意図(表現意図)を深める。
- ・音楽制作ソフトなどを活用して, 音の連ね方や重ね方を即興的に試しながら音楽をつくったり, 音色を様々に変化させながら, 表したい音楽のイメージを豊かにしたりする。
- ・つくった音楽を再生して音で確認しながら, 創作表現を創意工夫したり, ペアやグループで感想やアドバイスを伝え合いながら, つくった作品を修正したり, さらに工夫を重ねたりする。

### 【鑑賞】

- ・クラウドに保存された演奏の音源や画像を, 自分が視聴したい部分を取り出して繰り返し聴きながら, 音楽を形づくっている要素の知覚やその働きの感受を深める。
- ・作品の背景となる文化・歴史, 他の芸術との関わりについて考える際に必要な情報をインターネットで検索し, 作品に対する理解を深める。
- ・同じ作品を異なる楽器や異なる演奏家による演奏で聴き比べ, 音楽表現の共通性や固有性について考えながら, よさや美しさを味わって聴く活動につなげる。

# 中学校・第3学年・音楽科／場面のイメージを表す音楽をつくろう①

## 育成を目指す資質・能力

音のつながり方の特徴を表したいイメージと関わらせて理解するとともに，課題や条件に沿った音を組み合わせる技能を身に付けながら，まとまりのある創作表現を創意工夫し，創作に親しむ。

## ICT活用のポイント

- ・色分けされた音の配列を手がかりに，音の連ね方の違いによる特質や雰囲気の変化を捉える。
- ・つくった音楽を聴きながら，イメージした音楽になっているかを実際の音で確認する。
- ・ペアやグループで発表し合い，感想やアドバイスを参考に修正したり工夫を重ねたりする。
- ・修正や工夫の前後を比較して，その効果を確認する。

つくりたい音楽のイメージをもつ

音の連ね方を様々に試す

ペアやグループで発表し合う

修正したり工夫を重ねたりする

## 事例の概要

- ①家庭科の授業で作成した紙芝居をもとに，音楽をつける場面を選択し，どのような音楽をつくりたいかイメージをもつ。
- ②音楽制作ソフトを用いて，イメージに合った旋律をつくる。
  - ・色分けされた音の配列を手がかりに，音の連ね方を様々に試す。
  - ・つくった音楽を保存し，それを再生して，特質や雰囲気を感じ取る。
- ③つくった音楽をペアやグループで発表し合う。
  - ・互いの作品のよいところやさらに工夫ができそうなところを伝え合う。
- ④友達の感想やアドバイスを参考に，修正したり工夫を重ねたりして，よりよい作品へと仕上げていく。

# 中学校・第3学年・音楽科／場面のイメージを表す音楽をつくろう②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



色分けされた音の配列を手がかりに、音の連ね方を様々に試す場面

◎ ICT端末を活用することによって…

- ◆ 楽譜に書いて記録する必要がないため、即興的に音の連ね方を試す時間を多く確保できる。
- ◆ つくった音楽を保存し、それを再生することによって、つくった音楽をその場で音で確認することができる。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



ペアやグループでつくった音楽を発表し合い、感想やアドバイスを伝え合う場面

◎ ICT端末を活用することによって…

- ◆ つくった音楽を発表する際に、演奏の練習をする必要がないため、創作表現を創意工夫することに集中できる。
- ◆ 感想やアドバイスを参考に、修正したり工夫を重ねたりすることが比較的容易にできる。
- ◆ 修正や工夫の前後を比較して、その効果を確認することができる。

○ 活用したソフトや機能：SONG MAKER（音楽制作ソフト）



# 中学校・第2学年・音楽科・豊かな表現を目指して①

## 育成を目指す資質・能力

福岡県提供

- 「花（武島羽衣 作詞、滝廉太郎 作曲）」、のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「花」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。【思考力、判断力、表現力等】
- 「花」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「花」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。【知識及び技能】
- 「花」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。【主体的に学習に取り組む態度】

## ICT活用のポイント

- ICT端末にヘッドセットを装備し、模範演奏を聴きながら一緒に歌ったり、自分の歌声が思いや意図に合っているか確認したりする。
- 自分の歌っている様子を録画・視聴することにより、自分のパートの音程や歌う時の表情など、自分の課題を見つけ解決方法を探る。
- 学習支援システムを用いた交流を行うことで、意見交流の共有性を高める。

## 学習の流れ

「花」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもち、

「花」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫する。

創意工夫を生かして「花」を歌う

## 事例の概要

- ① 学習支援ソフトで課題や資料を配布する。
- ② ICT端末で「花」の演奏を鑑賞し、知覚・感受したことをスライドに書きこむことで共有する。
- ③ ICT端末で「花」の模範演奏を聴きながら一緒に歌う。
- ④ 自分の表現を撮影し、自身のパートの旋律や、表現したいイメージに合っているか確認する。  
※ ③、④を往還する
- ⑤ 撮影した映像をドライブに保存・整理し、ポートフォリオを作成する。
- ⑥ 楽譜に表現したいイメージ（思いや意図）を書き加える
- ⑦ 他者と演奏を相互聴取（交流）し、よい点や改善点について意見交流する。
- ⑧ 自身の以前の演奏と聴き比べ、演奏の変容や学習の過程を振り返る。
- ⑨ 次時の見通しやめあてを立てる。

# 中学校・第2学年・音楽科・豊かな表現を目指して②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



## 【事例におけるICT活用の場面②】



### 【場面①におけるICT活用のポイント】

学習支援ソフトに配布された課題や資料を確認し、ICT端末で「花」の演奏を鑑賞する。鑑賞を通じて知覚・感受したことを、楽譜ファイルに書き込むとともに、学習支援ソフトで交流することで、意見交流の共有性を高めている。

ヘッドセットを用いて、自身が聴きたい部分を選び、繰り返し鑑賞することができるようにしている。

自分の歌っている様子を撮影し、自身のパートの音程やリズム、表現したいイメージの通りになっているかどうか聴くことを繰り返し行う。自身の表現の振り返りを学習支援ソフトに入力することで、よい点や改善点について、相互交流することができるようにしている。

### 【場面②におけるICT活用のポイント】

生徒が撮影した演奏（実際の演奏含む）の様子や、書き込んだ楽譜ファイルの記述、ポートフォリオ等の書き込みを基に、教師は自身の表現したいイメージ（思いや意図）に合っているか問う。個別の指導・支援が必要な生徒に対しては、適切なフィードバックを行うことができるようにしている。

【活用したソフトや機能】 学習支援システム、動画撮影